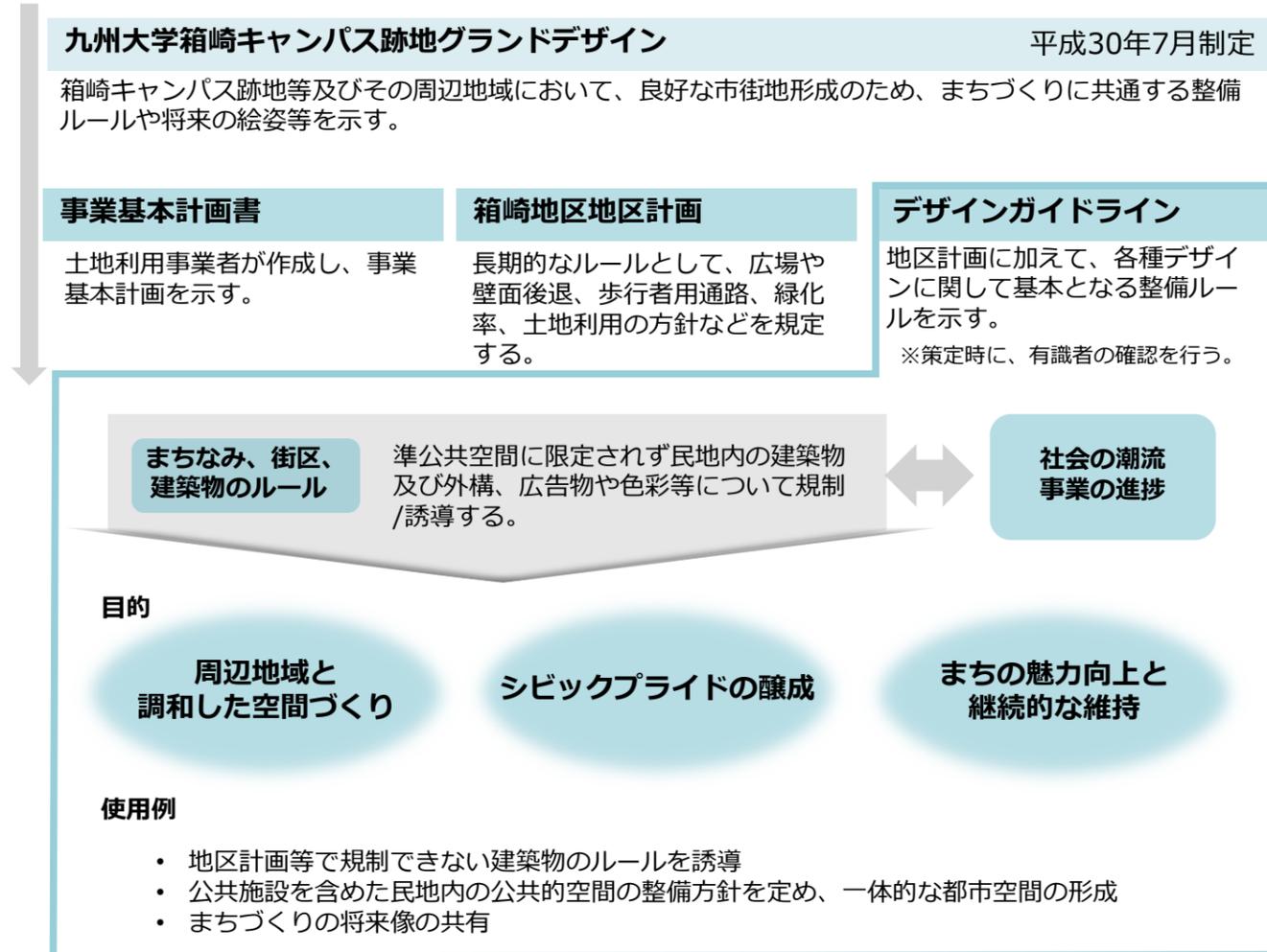


(別紙5) デザインガイドラインの策定及び運用について

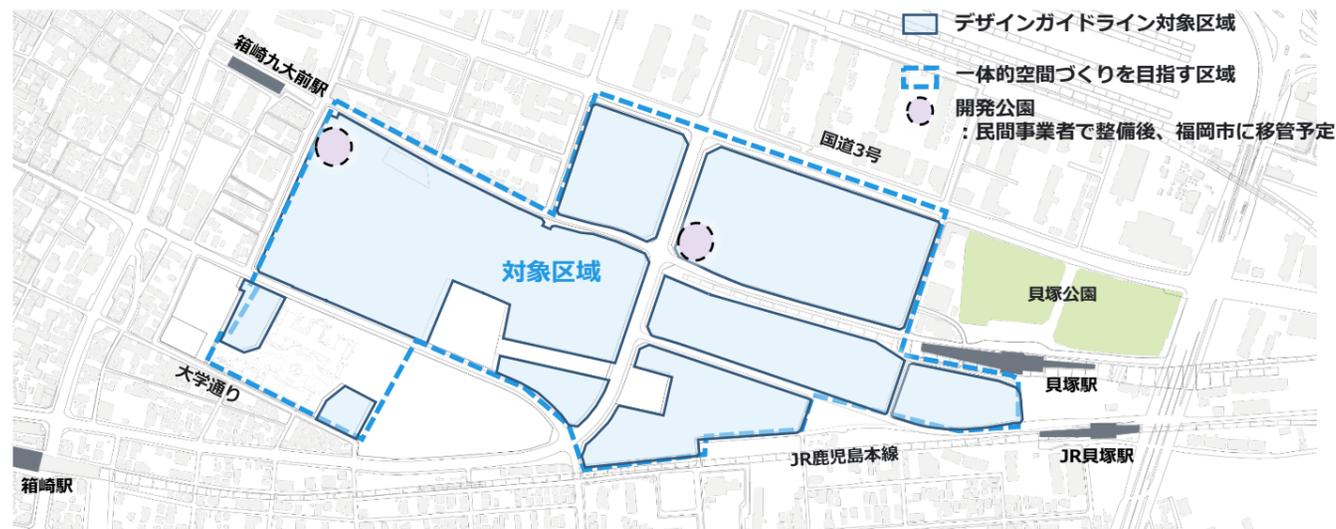
1. はじめに

a. デザインガイドラインの位置づけ/範囲

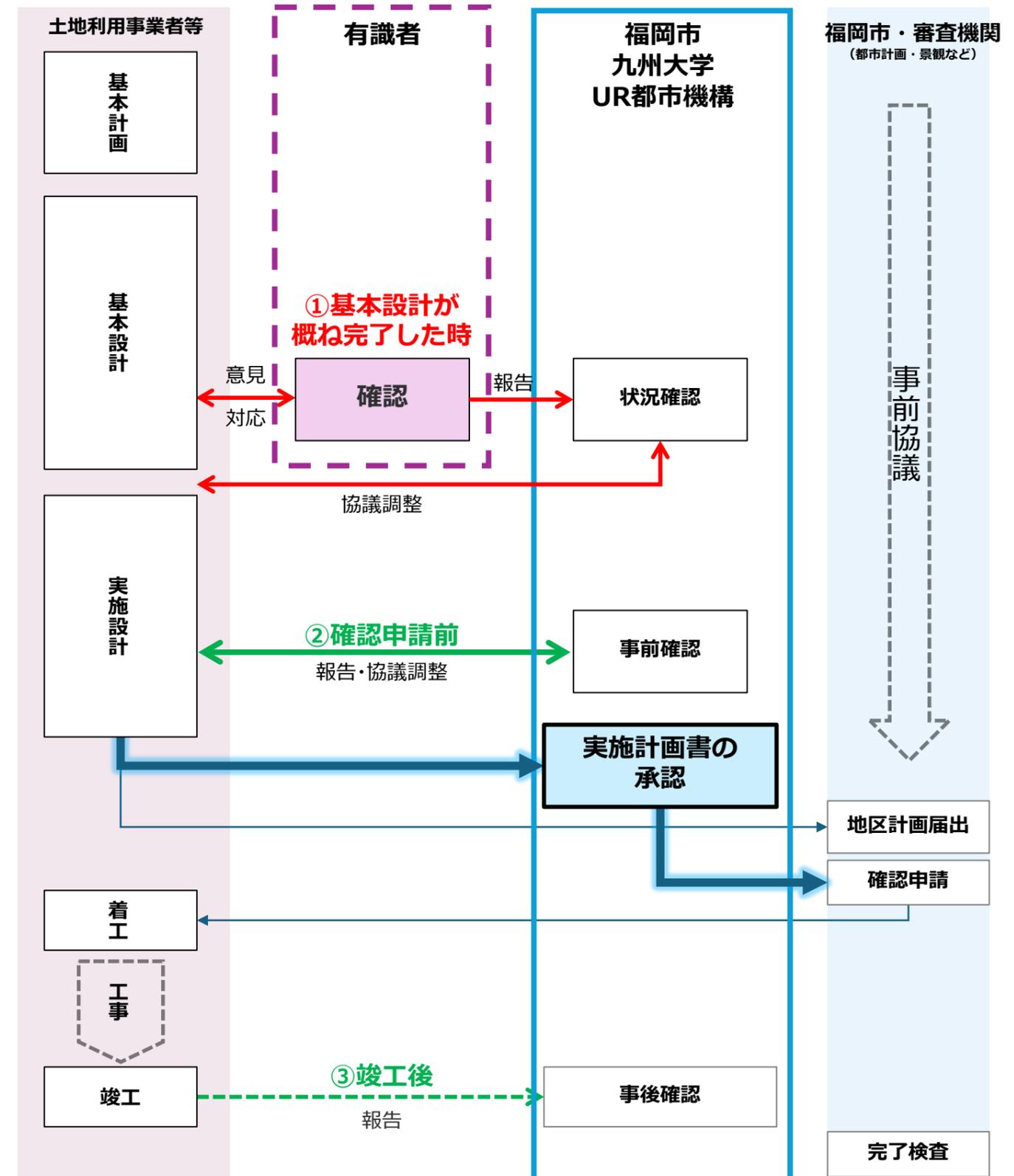
これまでの経緯と目的



対象区域



b. デザインガイドラインの運用フロー



2. まちづくりの基本方針と空間形成

a. まちづくりのコンセプトとデザイン方針

INNOVATION	新産業の創造と成長
イノベーションコアを中心に、まち全体で新産業を創造・発信 <ul style="list-style-type: none"> 産官学民連携による大規模実証フィールド グローバルな人材が集まり、新産業を創出するR&D施設BOX FUKUOKAの設置 健康・医療産業創出に向けたライフサイエンスパークの整備 IOWN構想を踏まえた新しいユースケースの研究開発センターを設置 	
LIFESTYLE	新しいライフスタイルの創出
一人ひとりの人生の質を高めるパーソナライズされたサービスが生まれるまち <ul style="list-style-type: none"> データ連携基盤とIOWN構想の活用によってアップデートし続けるスマートサービス タウンポータルや生体認証、共通ID、パーソナルデータストアによる利用者に寄り添ったスマートサービス モビリティハブとMaaSを軸にした域内外へのシームレスな移動 	
ECOLOGY	環境先進都市の創造と成長
最先端技術における脱炭素社会の実現と安全安心のまちづくり <ul style="list-style-type: none"> 水素パイプライン等を活用し、再生可能エネルギー事業実装 IOWNを活用したデマンドコントロールによる地域エネルギーの最適化 分散型インフラを活用したレジリエンスなまちづくり 	
GREEN	みどりあふれる空間の創出
創造性を育むエコロジカルネットワーク<箱崎創造の森> <ul style="list-style-type: none"> 各所に配置した広場と歩行者ネットワークが有機的に繋がりを、緑溢れる公園のようなまち 広場空間を活用した一人一花運動の推進 保全樹林・既存樹木を活かし、広域ネットワークとつながる緑化率40%・樹木総本数1万本以上の確保 スマートポールを活用したモニタリングによる環境システムの最適化 	
LEGACY	九州大学100年の歴史の継承
九州大学レガシーを継承し、九州の学びを集結した「マナビマチ」へ <ul style="list-style-type: none"> 九州大学箱崎サテライトを活用し、九州大学等との連携体制を構築 国際的な教育の場を置き、外国人含め多様な人材の受入や海外で活躍する人材育成の環境創出 IOWNの低遅延・大容量通信技術を活用し、九州～アジア～世界と遠隔共同研究・交流 	
HISTORY	福岡の文化・千年の歴史の継承
食・アート・音楽など福岡の文化・歴史を次の100年につなぐ <ul style="list-style-type: none"> 福岡の多彩な食文化体験ができる食文化を体験する施設により新たな観光と産業拠点の創出 まち全体に多彩な広場を配置し、地域コミュニティとの交流の歴史を継承し、新たな地域ネットワークに発展 IOWNが可能にする音楽・アートなどの次世代型エンターテインメント空間 	



革新 多様なレイヤーで交流を促す

- ストリート：各都市機能や空間を有機的に繋ぐ
- モビリティネットワーク：様々な交通モードを提供し、多様なニーズを支える
- スマートステージ：各ゾーンの活動が表れる
- 交流広場：まち全体の活動が重なり合う

みどり まち全体を有機的につなぐ

- みどりの帯を繋ぐ、生態系ネットワークの接続・強化
- 在来自然植生を分析し、在来種等の地域種の再生

伝統 歴史景観を継承

- 街割り+門の位置：街割りや動線、門の位置といった都市骨格の継承
- スカイライン形成：近代建築物ゾーンに対し建物高さを抑えることで、まち全体の連続的な美しいスカイラインを形成

2. まちづくりの基本方針と空間形成 b.「伝統」のデザイン方針

「伝統」 九州大学箱崎キャンパス時代の空間構成と建築意匠

背景 時代を超えて形成された多様な建築様式が共存するキャンパス空間景観

- キャンパス時代には、近代建築物が存在し、「近代建築物の評価報告書」などで評価がなされている。
- 一方で、それら以外の建築物についても、年代や様式を問わず、利用用途に応じて、建築・増改築が行われていた。
- この様々な年代や用途のものが混在し、ひとまとまりのキャンパスとして存在していたことこそが、キャンパスとしての空間特性である。
- また、それらの混在をひとまとまりにしてきた要素として、街割りや様々な緑地・広場空間が存在していたことが考える。それらは、キャンパス内だけでなく、周辺市街地と連続し、まちの人と、学生や研究者を繋いできた、公共性の高い重要な空間である。



凡例 「近代建築物の評価報告書」対象建築物
 ■ … ～1925年 ■ … ～1945年 ■ … ～1967年 ■ … その他



本部第一庁舎 (1925年)



航空工学教室 (1939年)



創立50周年記念講堂 (1967年)

1 まちとキャンパスを繋いだ、街割りや様々な緑地・広場空間

- キャンパス時代の都市空間の要素であり、今後のまちづくりにおいても、動線や景観の連続性を保ち、まちとの接続を強めるために、街割りや様々な緑地・広場空間の継承を行っていく。



準公共空間（ランドスケープ）の方針

九州大学の歴史と記憶を生かした風景に織り込む

2 多様な活動や建築物を受け止める、デザインの共通言語

- まちの統一感をもたらす、歴史性も感じつつ、様々な活動のベースとなるデザインの共通言語の抽出を行った。
- 近代建築物として評価され、現存している、本部第一庁舎、旧工学部本館を主な対象とし、その他元々キャンパス内に建っていた施設からも参照を行った。

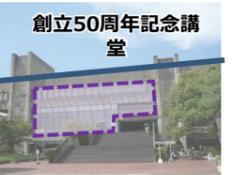
抽出したデザインの共通言語

- 基壇部の形成：落ち着きのあるスカイラインを形成する
- 壁面を主役とする壁面分節と意匠素材：重厚感と圧迫感の低減の両立
- 長方形の連続：リズムを与え統一感をもたらす
- 水平線の強調：街並みの連続性と重厚感をもたらす

現存している近代建築物



その他の近代建築物



建築物の方針

統一感のある街並みを形成する建築意匠

DESIGN CODE

2. まちづくりの基本方針と空間形成 c.「革新」のデザイン方針

●「革新」 新しい街を演出し、イノベーションを生む空間構成と建築意匠

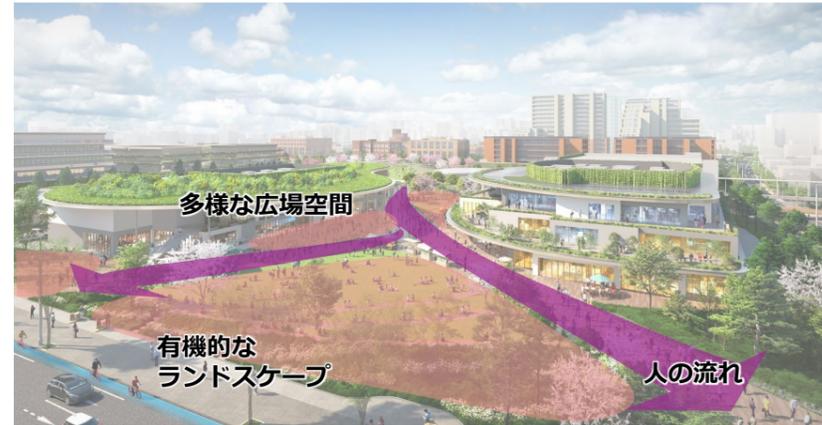
背景 多様なレイヤーで、交流を促す



- 先端的な研究・学び・社会連携を支えるために、閉じている建築ではなく、人々の多様な活動を受け止め、多様性を持ち、人や自然が中心となる拠点を形成する。この拠点は、建築と自然、内と外、低層と高層といったレイヤーを横断しながら成立する。
- 歴史ある文脈を受け止める一方で、新たな人を呼び込む場においては、近代的なデザインにより、変化する都市像や新しい街並みを先行的に可視化することを目指す。
- 複数の「革新」のデザインがキャンパスを引き継ぐ「伝統」のデザインと重なり合うことで、箱崎の未来を象徴する新たな景観を創出する。

DESIGN CODE

1 人々の交流と活動を促す柔軟な空間の連続



- 外構として計画される広場を単なる余白空間とせず、あらゆるレイヤーを通じて、活動の中心として明確に位置付け、気候にも配慮をした過ごしやすい屋外環境を形成する
- 歩の軸に対して、人々の活動を促す空間が連続する空間構成
- 人の流れを主役とした、回遊性のある、シームレスなランドスケープ
- 地上や壁面、屋上などに配された緑による、都市的スケールから人間スケールまで連続した、立体的な緑

準公共空間（ランドスケープ）の方針

みどりや広場を主役として、人々の多様な活動を受け止める過ごしやすい空間とする

2 ランドスケープと融合した開放的で連続性のある建築空間

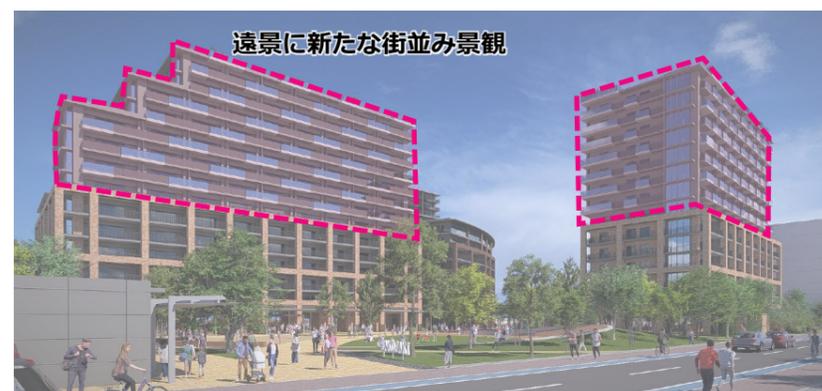


- ランドスケープと呼応する有機的な建築物の形状
- 内外の活動を連続させるため、庇などによる中間領域
- 歩の軸沿いにおいては、内外の視線の関係を生む、大きな開口部
- イノベーションコアにおいては、複層的なシーンを展開する、多層的なみどりや活動の空間

建築物の方針

まちの境界を作らず、活動を支える

3 都市空間の背景として、静かに佇みながら、遠景として、新たな街並みを象徴する



- 低層部では広場・緑・人のスケールに寄り添い、中層部まではリビングゾーンにおいて九州大学の歴史的景観を生かした景観形成を行い、高層部では近代的かつ先進的な意匠により都市景観に応答する。
- 遠景においては新たな街並みを象徴する景観を目指す。
- 伝統的な九州大学の伝統と革新が折り重なる多様性のある風景を創出。

建築物の方針

伝統と革新が重なり合い新たな風景を都市に演出する

3.整備方針

準公共空間と建築物の整備方針

伝統と革新が重なり合い新たな風景を都市に演出する

- 大学キャンパスとしての、多様な知を受け止め、外部空間も活かした交流を促してきた「九大らしい」街並み景観の形成を図ります。かつて存在した建物や空間などの土地の歴史や記憶を引き継ぎつつ、人々の交流を促し、まち全体でイノベーションを促進される空間づくりを行います。景観の要素として、まち全体でランドスケープから建物意匠までの、多様な要素を複合的に取り込みます。

準公共空間（ランドスケープ）

みどりや広場を主役として、人々の多様な活動を受け止める過ごしやすい空間とする

- 流線形のランドスケープ：境界を作らず、一体性を生む
- まち全体に配置したモビリティハブ・ポート：様々なモビリティをまち全体で提供
- 活動を支え、彩りや刺激を与えるファニチャやアート
- 交流の拠点となるスマートステージ

まち全体をみどりのネットワークで繋ぐ「箱崎創造の森」を創造

- 在来自然植生をベースとした樹種選定により土地と呼応する植栽計画
- 各ゾーンごとに緑化率を設定し、まち全体で緑化率約40%を確保
- まち全体で樹木総本数10,000本以上
- 土地の水循環を促し、潤い溢れる風景を作るレインガーデンを計画



緑化イメージ

九州大学の歴史と記憶を生かした風景に織り込む

- 大小さまざまな滞留・広場空間
- 噴水の継承：文系庭園の憩いの場であった噴水広場を引継ぎ、潤い溢れる広場を計画
- 九大時代の部材を活用したアート：九州大学自体の建物の保存部材等を活用したパブリックアート等を計画
- みどり空間の継承：土地の記憶を継承する存在として、既存樹木の利用や保全樹林などのみどり空間の継承

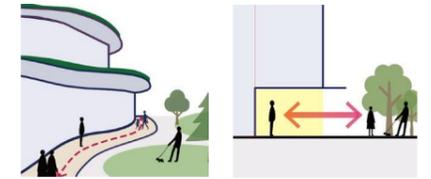


九州大学時代の部材（例）

建築物

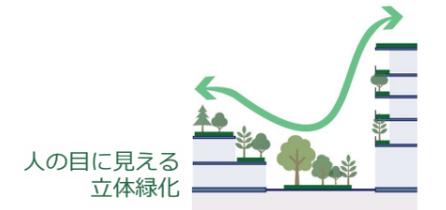
まちの境界を作らず、活動を支える

- 流線形の形状：活動を受け止める広場を強調する
- 広場やストリートに対する庇や大きな開口部、複層的な視線の関係性：建築物内と広場の活動をシームレスに繋ぐ。



都市と建築を繋ぐ立体的な緑

- 屋上やバルコニー、壁面などの立体的な緑化
- 自然と調和したデザイン



人の目に見える立体緑化

統一感のある街並みを形成する建築意匠

九大らしさを取り入れた、重厚感と統一感をもたらします

- 基壇部の形成
- 壁面分節：圧迫感の低減
- 長方形の連続：リズムを与え統一感をもたらす
- 水平線の強調：街並みの連続性と重厚感をもたらす



準公共空間を中心とした外構整備方針

街区を超えて共通するため、ストリートに応じて共通事項を定める



- スマートステージ
- 歩行者ネットワーク
- 街角広場
- 植栽
- 車両動線・モビリティ
- 舗装
- 壁面後退
- 誘導案内サイン
- アート
- ストリートファニチャ
- 照明計画

※下線部・太字を参考としてP6に抜粋

建築物に関連する整備方針

土地利用に応じて、建築物の共通事項を定める

- ナレッジゾーン：近代建築物周辺として、最も九大らしいデザインを追求する。
- イノベーションコア/ゲートゾーン：賑わい・業務の中核として、新たな人々を受け入れる、革新性と九大らしさの両立を図る。
- ノース/サウスリビングゾーン：居住を基本に、落ち着いた九大らしさを軸としつつ、新たなまちを象徴する遠景での革新性も表現する。
- 国道3号沿い：主要幹線沿いとして、多様なデザインを許容し、既存市街地との連続性を図る。



- 意匠・素材
- 色彩
- 屋外広告物
- 夜間照明
- 壁面後退
- 壁面分節
- 基壇部と高層部の分節
- 高層部・頂部
- 壁面/屋上緑化
- 室内緑化
- 低層部の賑わい形成
- 景観軸の形成
- 屋外階段
- バルコニー
- 民地内の外構計画
- 工作物

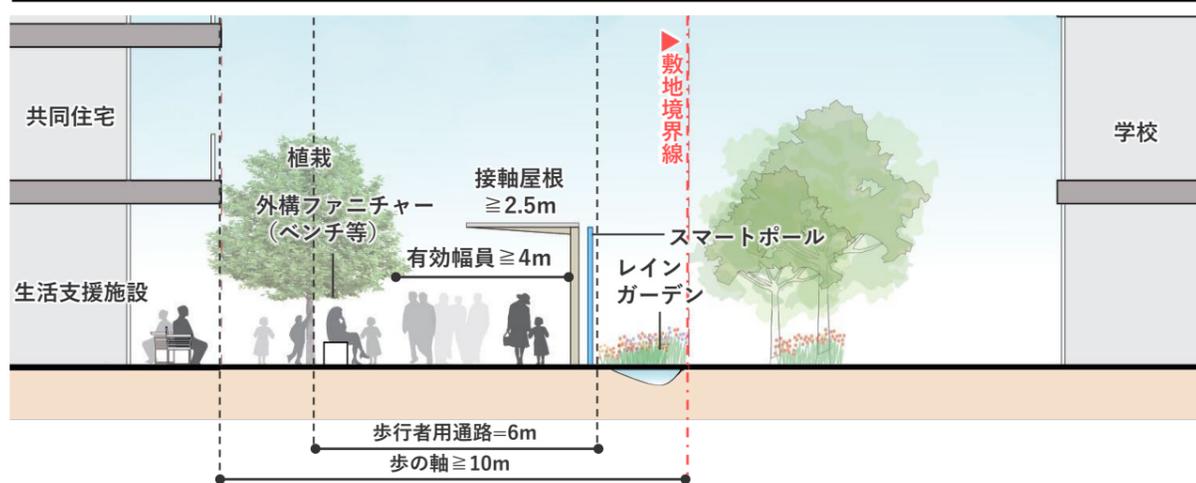
※下線部・太字を参考としてP7に抜粋

4.準公共空間（ランドスケープ）の整備に関する記載（抜粋）

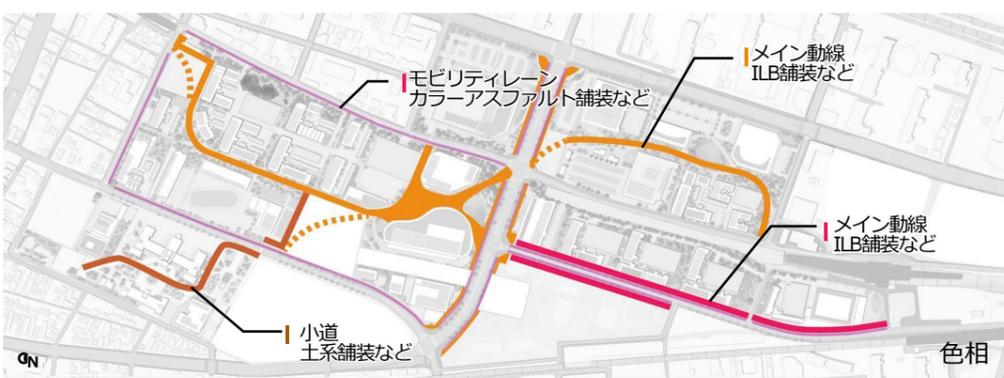
主要な都市空間を準公共空間とし、各デザインの要素に対して、まち全体での位置付け・方針を示す。

・歩行者ネットワーク：サウスリビングストリート

整備区間	箱崎九大前駅～サウスリビングゾーン～イノベーションコア		
全体幅員	10m以上	歩行者用通路幅員 (有効幅員)	6m以上(4m以上)
動線としての特性	天候に左右されにくい快適なアンブレラフリー動線(接軸屋根 幅員2.5m以上)		
空間形成方針	<ul style="list-style-type: none"> 緑に囲われた安らぎ空間を備えた歩行者空間 施設と一体となった賑わいと交流が溢れるスマートステージ、交流広場、開発公園などと一体的な空間 		
付帯施設等	<ul style="list-style-type: none"> アート、外構ファニチャー(ベンチ等) 利用者が気軽に休憩・交流できるフォリー(東屋) 来街者や居住者など多世代・多様な人々が身近に自然にふれあい、環境学習等ができるレインガーデン 回遊性の向上を図る、保全樹林も取り入れた生態系散策路 		



・舗装整備方針



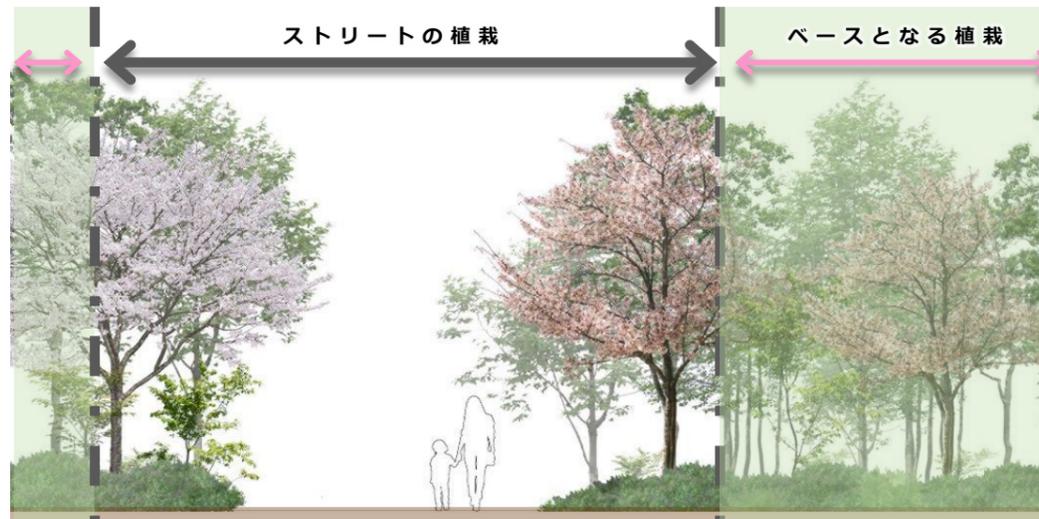
モビリティレーン
接する準公共空間(壁面後退)舗装と合わせた色彩のカラーアスファルト舗装とする。

歩の軸
歩の軸沿いの緑や、九大キャンパスの街並みを継承する落ち着いた色彩の建築群と調和する舗装 → ページュベースの舗装など

ノースリビングストリート
落ち着いた色彩の建築群を引き立て、品格を感じさせる舗装 → ウォームグレーベースの舗装など

- 準公共空間の舗装と民地側外構舗装の色味や舗装材等を極力揃えることで、連続した景観形成を行う。
- 右図に示す箇所については指定舗装材を用いた整備を実施する。

・植栽整備方針



ストリーツの植栽(例) 歩の軸 各ストリートごとに特色ある樹種を選定し、特色あるストリート景観を形成する。



ベースとなる植栽

下図に掲げる樹種植栽を基本として選定することで、まち全体で統一感のある景観形成を図る計画とする。



植栽パレット(一部)

・参考図



各街区における準公共空間の参考図を示す。まちの都市空間の将来像を示しつつ、各建築敷地での外構部や建築計画において参照を行う。

5. 建築物の整備に関する記載（抜粋）

建築物に関する各デザインの要素に対して、まち全体での位置付け・方針を示す。例として、ナレッジゾーンに関する記載を以下に示す。

・意匠・素材

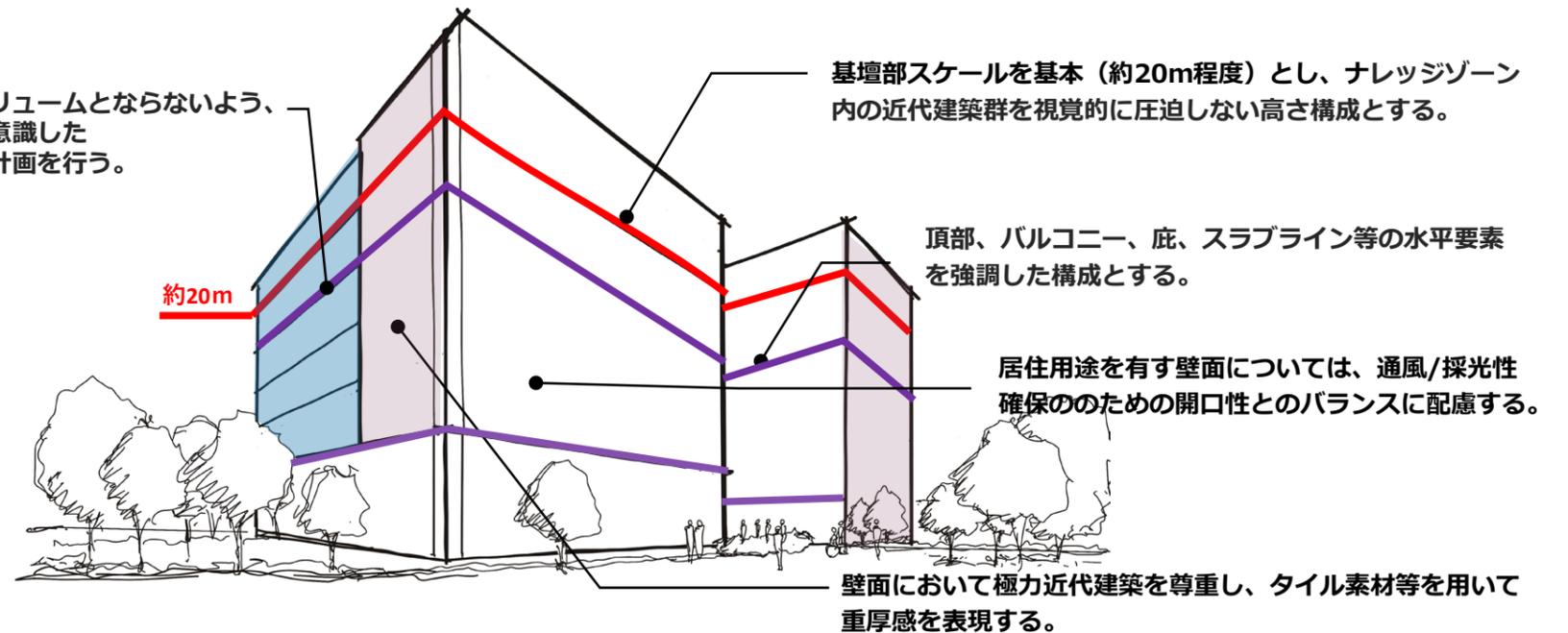
○ナレッジゾーン 土地利用：教育/居住/医療・福祉

1. 基本方針

ナレッジゾーン内に整備される建築物は、旧九州帝国大学工学部本館等の近代建築群が有する歴史的景観および象徴性を尊重して計画するものとする。

建築形態は過度な造形的主張を避け、落ち着いたあるボリューム構成と秩序ある立面構成により、周辺の歴史的建築との調和を図る。

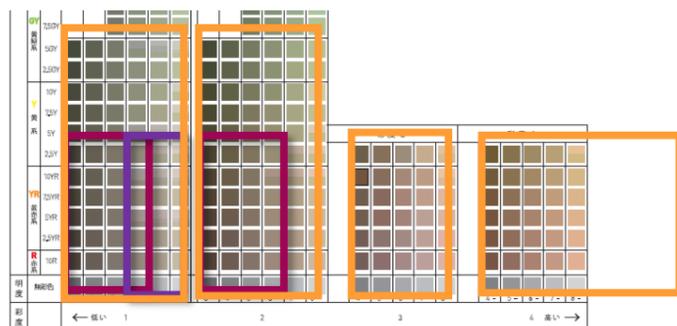
単一の巨大なボリュームとならないよう、**九大の街並みを意識した壁面分節や配棟計画を行う。**



・色彩

ゾーン別に色彩の規制を行う。
外壁基本色/にぎわい色を各ゾーンに定め、まちの統一感と共に、印象的な色彩景観を目指す。

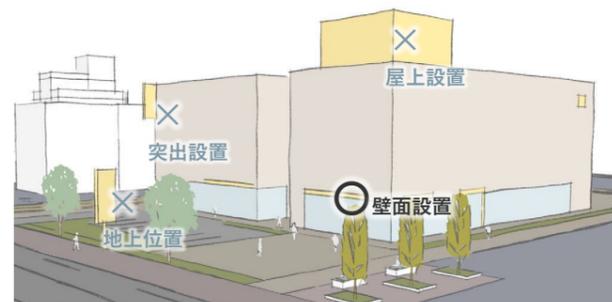
- 壁面で用いる色数は過剰にならないように配慮する。
- 外壁基本色1：基壇部**は九大旧工学部本館及び周辺施設に調和する明度は6以下、有彩色の場合は色相10Rから2.5Yまでとし、高層部と異なる九大歴史ゾーンパレット色相を用い、彩度2以下とする。
- 外壁にぎわい色1**：賑わいを演出するため、明度は8.5以下、有彩色の場合は色相10Rから5GYまでとし、彩度4以上の色彩も可能とする。各壁面の見付面積の10%程度以内とする。
- 外壁基本色2：高層部**は空への溶け込みを意識した淡い色調を用い、明度は6以上8.5以下、有彩色の場合は色相10Rから2.5Yまでは彩度1以下とする。



「福岡市色彩ガイドライン（平成29年5月作成）」参照

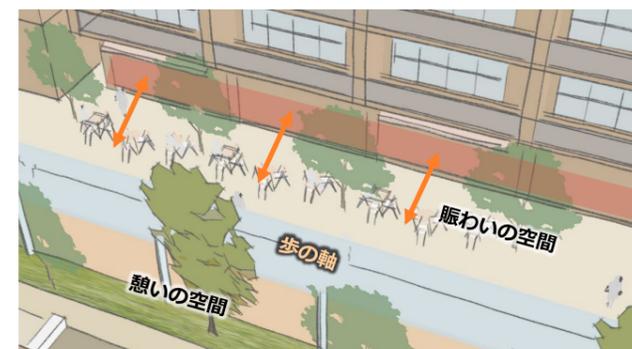
・屋外広告物

- 自家用広告物に限る。
- 形状、面積、色彩、意匠は周辺の街並みとの調和に配慮する。
- 蛍光塗料及びこれに類したものは使用しない。
- 道路の上空に係る広告物は設置しない。
- 公共空間（道路、公園及び緑地等）からの見え方に配慮する。
- 設置位置については、集約化し配置を揃えるように努める。
- 景観に配慮し、壁面設置型広告物のみとする。



・低層部の賑わい形成

- 歩の軸に面する地上階については、可能な限り、賑わい又は憩いの空間を設ける。
- にぎわい空間を設ける際は、にぎわいに資する機能（店舗等）などを面し、開口部や出入口を設け、視覚的・活動的な賑わいを創出するようにする。
- 憩いの空間を設ける際は、まとまりのある緑地やベンチなどを設け、ゆとりある空間を創出するようにする。



・民地内の外構計画にかかる方針：平面駐車場

- 公共空間/準公共空間（交流広場、歩の軸、街角広場、スマートステージ）に接する面については、極力緑化などの修景配慮を行う。
- 出入口のサイン、料金ゲート、料金機器、ポール、日よけテントなどを設ける場合は極力周辺景観に配慮した色彩とする。
- 夜間照明については全体ゾーン同等の照明質とする。

